HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	北海道大学埋蔵文化財調査センターニュースレター　第35号
Issue Date	2020-03
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/77361
Type	journal
File Information	newsletter35.pdf

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

第35号　2020年3月

北海道大学 Hokkaido University Archaeological Research Center News Letter
埋蔵文化財調査センター ニュースレター

特集　支脚

カマドに掛けた甕などの煮沸用容器を火焼面（火床）から浮かせた状態で固定するための道具が支脚です。簡単な柱状のものですが、粘土を焼いて作った筒状の専用品（土製支脚）、柱状の石を用いたもの（石製支脚）、その他に土器を上下反転し設置した転用品（土器転用支脚）があります。

古墳文化になり、竪穴住居にカマドが作り付けられるようになると支脚も登場し、北海道では擦文文化（8世紀～13世紀）の段階に導入されます。北大構内（K39遺跡）の擦文文化の竪穴住居址のカマドでも支脚が残されたままで発見される事例があります。簡単な道具ですが、ヒトと火（加熱調理）との関係を考察するためになくてはならない発明品です。

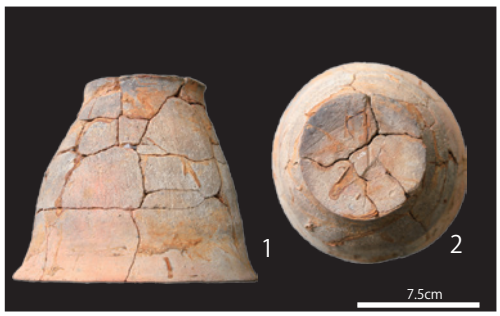
本特集では、この支脚を紹介します。

▲ K39遺跡農学部実験実習棟地点第2号竪穴住居址（HP02）のカマド火床に設置された石製支脚（安山岩の礫）

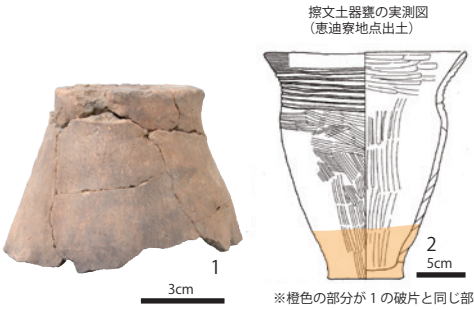
支脚が出土した地点

▲ 構内では、4 地点で支脚が発見されている。

▲ 恵迪寮地点出土の土製支脚
（逆 U 字形の透かしがある土製円筒状支脚：擦文中期）



▲ 恵迪寮地点出土の土器転用支脚（小型甕）
第 1 号竪穴住居址カマドの火床で上下反転（上の写真 1）された状態で発見された（擦文中期）。小型甕が支脚転用されたもの（1 は側面、2 は真上から撮影）。



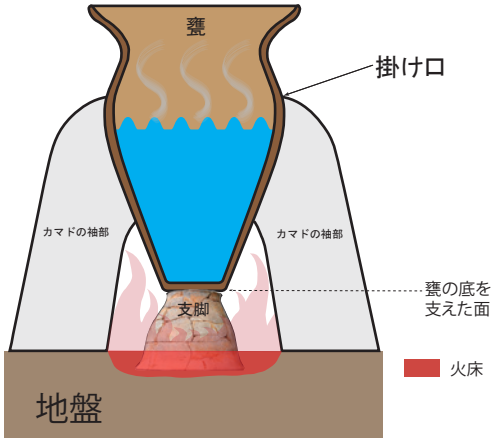
▲ 農学部実験実習棟地点の土器転用支脚（甕の底部片）
第 3 号竪穴住居址のカマド火床で発見された（擦文中期）。破損した甕の底部を再利用して支脚とした。

番号	地点名	種類	出土数	時期	出土位置	報告書名	備考
1	K39遺跡エルムトンネル地点	土器転用支脚（甕底部）	1点	擦文中期	HP16カマド火床	K39遺跡第6次調査　2001　札幌市教育委員会	6g層
		土器転用支脚（甕底部）	1点	擦文中期	HP17カマド火床	K39遺跡第6次調査　2001　札幌市教育委員会	5g層
		土器転用支脚（甕底部）	1点	擦文中期	HP19Aカマド火床	K39遺跡第6次調査　2001　札幌市教育委員会	5g層
		土器転用支脚（甕底部）	1点	擦文中期	HP31カマド火床	K39遺跡第6次調査　2001　札幌市教育委員会	5g層
		土器転用支脚（甕底部）	1点	擦文中期	HP33カマド火床	K39遺跡第6次調査　2001　札幌市教育委員会	5g層
		土器転用支脚（甕底部）	1点	擦文中期	HP50カマド火床	K39遺跡第6次調査　2001　札幌市教育委員会	6a層
		土器転用支脚（甕底部）	1点	擦文中期	HP52カマド火床	K39遺跡第6次調査　2001　札幌市教育委員会	6a層
		土器転用支脚（甕底部）	1点	擦文中期	HP46カマド火床	K39遺跡第6次調査　2001　札幌市教育委員会	5g層
		土器転用支脚（高坏脚部）	1点	擦文中期	HP46カマド火床	K39遺跡第6次調査　2001　札幌市教育委員会	5g層
2	K39遺跡恵迪寮地点	土製支脚	1点	擦文中期	HP02	サクシュコトニ川遺跡1,2　1986　北海道大学	IV c 層：注記支脚6
				擦文中期	炭化物52	サクシュコトニ川遺跡1,2　1986　北海道大学	IV c 層：注記支脚6
		土製支脚	1点	擦文中期	HP05床面	サクシュコトニ川遺跡1,2　1986　北海道大学	IV c 層：注記支脚1
		土製支脚	1点	擦文中期	HP05床面	サクシュコトニ川遺跡1,2　1986　北海道大学	IV c 層：注記支脚2
				擦文中期	第1号土壙覆土	サクシュコトニ川遺跡1,2　1986　北海道大学	IV c 層：注記支脚2
				擦文中期	第6号土壙覆土	サクシュコトニ川遺跡1,2　1986　北海道大学	IV c 層：注記支脚2
		土製支脚	1点	擦文中期	HP05床面	サクシュコトニ川遺跡1,2　1986　北海道大学	IV c 層：注記支脚4
		土製支脚	1点	擦文中期	焼土・炭化物22	サクシュコトニ川遺跡1,2　1986　北海道大学	IV c 層：注記支脚5
		土製支脚	1点	擦文中期	焼土43火床	サクシュコトニ川遺跡1,2　1986　北海道大学	IV c 層：注記支脚3
				擦文中期	焼土68火床	サクシュコトニ川遺跡1,2　1986　北海道大学	IV c 層：注記支脚3
		土製支脚	1点	擦文中期	焼土65覆土	サクシュコトニ川遺跡1,2　1986　北海道大学	IV c 層：注記支脚7
		土器転用支脚（小型甕）	1点	擦文中期	HP01カマド火床	サクシュコトニ川遺跡1,2　1986　北海道大学	IV c 層
3	K39遺跡附属図書館再生整備地点	土器転用支脚（甕底部）	1点	擦文前期	HP01カマド火床	北大構内の遺跡19　2012　北海道大学埋蔵文化財調査室	
4	K39遺跡農学部実験実習棟地点	土器転用支脚（甕底部）	1点	擦文中期	HP03カマド火床	北大構内の遺跡22　2016　北海道大学埋蔵文化財調査センター	
		石製支脚（礫）	1点	擦文後期	HP02カマド火床	北大構内の遺跡22　2016　北海道大学埋蔵文化財調査センター	
		土器転用支脚（甕底部）	1点	擦文前期	HP04カマド火床	北大構内の遺跡22　2016　北海道大学埋蔵文化財調査センター	

支脚が使われた場所

支脚は、カマドの火床で主に発見されます。恵迪寮地点（2頁一覧表：2番）第1号竪穴住居址のカマド火床では、支脚の上に載るような状態で、擦文土器の甕が発見されました。下図のように設置されていたと推定されます。

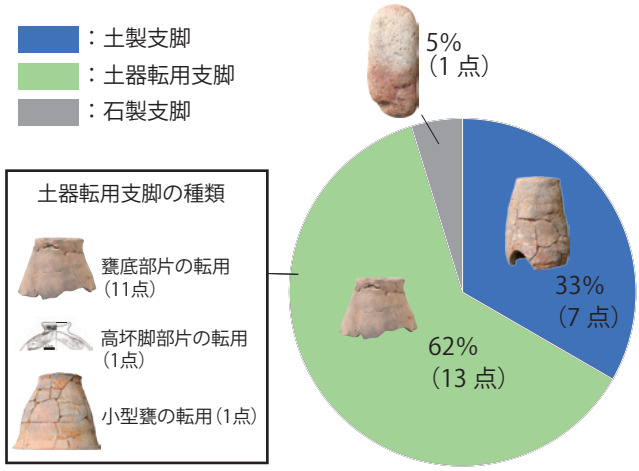
甕の底面を火床から離して、中空に固定することによって加熱効率を高めるとともに、カマド掛け口にかかる容器の重さを分散させる働きがあります。



▲恵迪寮地点第1号竪穴住居址で発見された支脚出土状態（模式図）

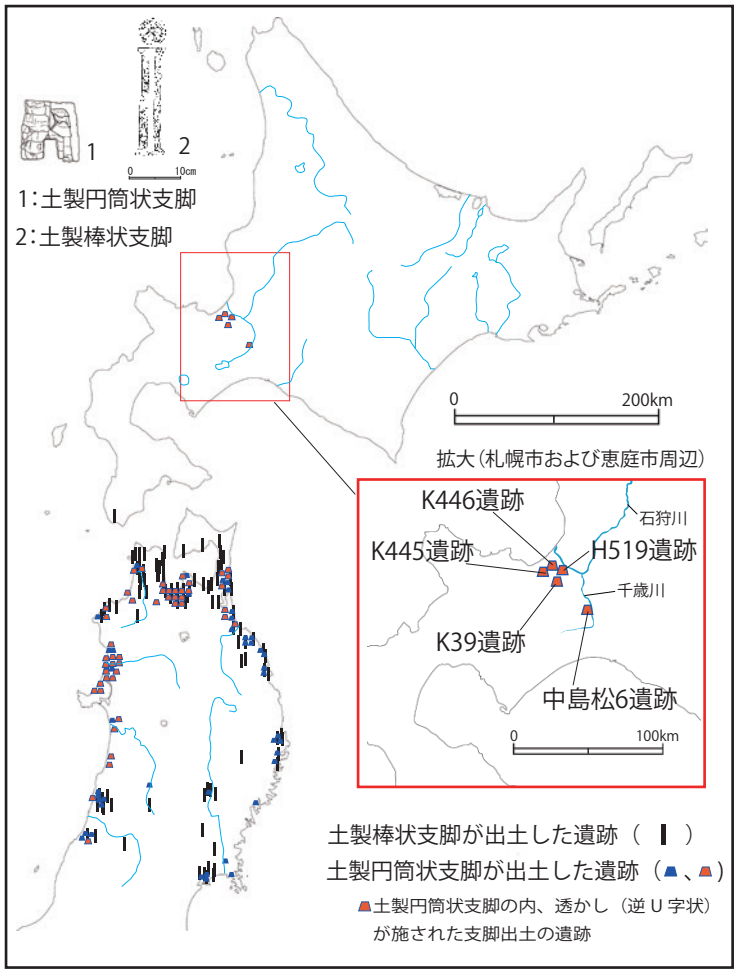
構内で発見された支脚

北大構内の遺跡では、支脚21点が発見されています。土製支脚7点、土器転用支脚13点（小型甕の転用1点、甕底部片の転用11点、高坏脚部片の転用1点）、石製支脚1点の内訳です。構内の遺跡では、土器転用支脚が多く利用されています。



▲構内の遺跡で出土した支脚種類とその百分率（点数）

東北地方北部～北海道における土製円筒状支脚の発見された遺跡



◀ 土製円筒状支脚が発見された遺跡の分布図
（柏木大延, 2013, 古代東北・北海道における土製支脚の系譜とその意義, 物質文化, 93, 図6に基づき作成）

東北地方北部では、7世紀～11世紀の遺跡で2種類の土製支脚が発見されています。一つが土製円筒状支脚（左図：1）で、側面に透かしが施されるものとないものに細別されます。もう一つは土製棒状支脚（左図：2）です。

北海道では、少し遅れて、9世紀後半～12世紀の遺跡で土製支脚が発見されています。透かしがある土製円筒状支脚が道央部（札幌市、恵庭市）の遺跡でみられ、土製棒状支脚は道南部（松前町）の遺跡で確認されています。

道央部では、札幌市K39遺跡、K445遺跡、K446遺跡、H519遺跡、恵庭市中島松6遺跡の発掘調査によって、透かしのある円筒状支脚が確認されました。

上記の5遺跡は、千歳川および石狩川が流れている石狩低地帯でまとまって分布しています。

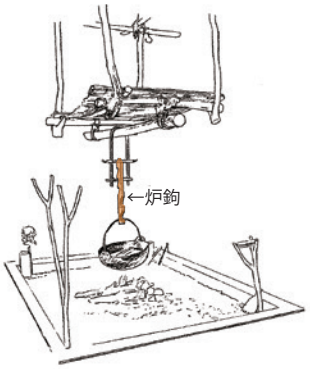
炉鉤（ろかぎ）

炉鉤は、囲炉裏で効果的に火力を利用するための道具です（右のイラスト参照）。吊り下げる高さを上下に移動することで、鍋と炎との距離を調整できました。

千歳市美々8遺跡では、低地に堆積した地層（17世紀～18世紀前半に位置づけられる）中から、炉鉤が発見されています。スギの板材を加工して、3段の鉤手（引っ掛ける箇所）が作り出されていました（右写真参照）。

北海道の遺跡で炉鉤が利用されていたことが発掘調査によって明らかとなっています。

▲千歳市美々 8 遺跡の炉鉤発見状態
財団法人北海道埋蔵文化財センター「美沢川流域の遺跡群ＸＸ千歳市美々 8 遺跡低湿地部」1997 年刊行から写真を引用。



▲囲炉裏での炉鉤（イメージ）
「よみがえる北の中・近世－掘り出されたアイヌ文化－」㈶アイヌ文化振興・研究推進機構　2001 年刊行　118 頁イラストを引用。

ボランティア活動（報告）

令和元年度のボランティア活動は、計11回行いました。K39遺跡附属図書館本館再生整備地点で発見された土器（縄文土器、続縄文土器）・石器の観察、分類作業によって、資料に対する知見を深めること、トレイルウォークでの受付を活動として実施しました。

▲第 21 回トレイルウォークでのボランティア活動の様子

2020（令和 2）年度の公開・普及活動の予定

2020（令和2）年度は、以下の活動予定があります。

○人類遺跡トレイルウォーク
北大キャンパス内にあるサテライトをテーマに基づいて、訪ね歩きます。

○企画展示
ニュースレターの特集、調査成果報告会に合わせた企画展示を行います。

○調査成果報告会
2020（令和2）年度の発掘調査成果の紹介と考古学に関連の深い分野の専門家による特別講演会を実施します。

編　集　後　記

北海道の土製支脚はカマド火床で使われていた一方、東北北部の土製支脚は製塩と関わる遺物に伴って炉址火床でみつかります。土製支脚が用いられた作業の理解には、多角的な視点で遺構の内容を把握する調査が、さらに必要と感じました。今後の課題です。（守屋）

北海道大学埋蔵文化財調査センターニュースレター第35号

発行　：北海道大学埋蔵文化財調査センター
〒060-0811　札幌市北区北11条西7丁目
電話　：011-706-2671　FAX：011-706-2094
e-mail：hokudaimaibun@gmail.com
URL　：http://maibun.facility.hokudai.ac.jp/